

中学年総合

「母子の『すてき』発見～母子の『み力』を伝えよう!～」

1. はじめに

中学年は、総合的な学習の時間に「母子の『すてき』を伝えよう!」をテーマにして学習を進めています。「母子のいいところはどんなところかな。」「母子の特産物や名所にはどんなものがあるかな。」というところから学習を始め、もっと知りたいことや調べてみたいことを話し合い、決めていきます。また、どんな方法で調べるとよいのかも意見を出し合います。実際に見学に行ったり、分からないことやもっと知りたいことを地域の人にたずねたり、本やタブレット端末などで調べたりしながら総合的な学習の時間を進めています。

2. 令和7年度を取組より

年度初めに、母子について知っていることを発表し、交流しました。「母子の良さ」や「特産物」「名所」について子どもにたずねると、「母子茶」や「花豆」、「母子にしかない生き物」、「花のじゅうたん」や「そば」、「母子の月」など、たくさんの答えが返ってきました。その中で、今年特にくわしく調べたいことを話し合った結果、「去年、あまりとれなかった花豆をもう一度育てたい。」「母子の生き物を調べてまとめたい。」という2本の柱に決まりました。

母子の花豆を育てて、収穫した花豆を使って料理をしよう

昨年育てた経験のある4年生が、花豆を植える時期や栽培の方法を3年生に伝えます。今年度は、種まきから収穫、料理をして、食べるまで「花豆日記」にまとめることにしました。

6月10日、花豆を観察した後、ポットに豆をまきました。それを教室のよく日の当たる場所に置き、水やりや観察を行いました。そして、7月9日には、ポットから畑に植え替えをしました。7月中旬でも、朝から気温が30度近くあり、暑さに弱いと聞いていた花豆が無事に育つかどうか心配でした。



2学期が始まり畑に行ってみると、赤い花はたくさん咲いていましたが、15株ほどあったうち残ったのは6、7株ほどでした。9月11日、百歳体操交流の後、地域の人にインタビューしました。「どうして母子で花豆が育てられるようになったのですか。」「花豆を使った料理を教えてください。」などたずねると、くわしく教えていただきました。



11月6日、1回目の収穫を行いました。緑色のものもありましたが、茶色のものだけ収穫しました。この時も4年生が「ふってみると、カラカラ音のする豆だけとるといいよ。」と3年生に教えていました。



11月13日、2回目の収穫です。この時にも、まだ緑色の豆がいっぱいありましたが、地域の方から、「霜が降りると豆がだめになってしまうから、全部収穫するといいいよ。」と教えていただいていたので、実の入ったさやをすべて収穫しました。



新聞紙の上でひと月以上、日に干した後、花豆を煮豆にすることにしました。

1月20日、煮豆を作りました。前日に花豆を洗い一晩水につけておきました。鍋を火にかけ、あくを取りながら水を付け足すことを繰り返すこと6時間、ふっくらしたおいしい煮豆が出来上がりました。

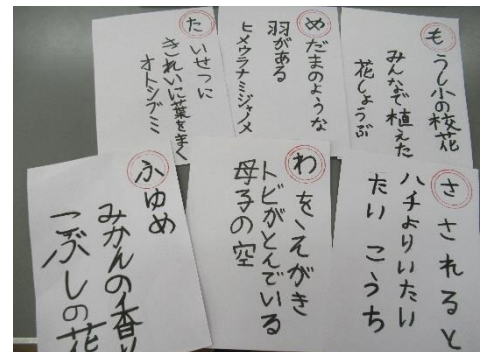
できた煮豆は、全校生や先生方にふるまいました。「とてもおいしかった。」

という感想をもらい、子どもたちはうれしそうでした。

今回の学習を「花豆日記」にまとめ、ふるさと感謝祭で発表しました。子どもたちは、花豆づくりを通して、作物を育てるのには苦勞と喜びがあるということ、またそれだけに、料理をして食べた時には格別のおいしさがあるということに気づくことができました。「母子の特産物・花豆」をこれからも大切にしていきたいです。

見つけた母子の生き物でカルタを作ろう

年間4回の「生きもの教室」で見つけた生き物について、その生態や形・様子などを簡潔な言葉で表し、カルタを作っていました。実際に触ったり、観たり、におったり、感じたりしたことが言葉として表現されていて大変興味深いカルタになっています。



3. おわりに

子どもたちの「もっと知りたい」「やってみたい」という気持ちを大事にしながら、地域の人とつながり、これからも総合の学習に取り組んでいきたいです。そして、子どもたちには、母子のことをこれまで以上に大好きになってほしいと願っています。